

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290300058		
法人名	株式会社 ソレイユ		
事業所名	グループホーム ル・ソレイユ函南		
所在地	静岡県田方郡函南町間宮760-1		
自己評価作成日	令和4年2月26日	評価結果市町村受理日	令和4年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2290300058-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の声に耳を傾け、その思いを受け止め、可能な限り利用者の声に応えるよう努めています。共に笑い、共に悩み、正面から向き合い、利用者の笑顔に繋がる関りを職員1人ひとりが取り組むことに力を入れています。そのため、利用者個々の把握ができるように利用者1人に担当職員を1人配置し、出勤時に合わせ利用者個々の生活環境の整備を一緒に行ったり、コミュニケーションの中で困りごとはないかなど信頼関係の構築に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、2Fにグループホーム2ユニットが並び、1Fはデイサービスと小規模多機能型居宅介護事業所が入る複合型介護施設であり、地域住民との協力関係を築いている。有料老人ホームから転用した施設のため、各居室はトイレ・洗面台・ミニキッチンを備え、利用者の能力に合わせた暮らしやすい居室作りを心掛けている。毎年度最初の職員会議では、事業所の年間事業計画を確認し、理念に基づく支援の実践に繋げている。管理者は、職員の「業務目標シート」による自己評価を促し、個人面談や勉強会を通して目標達成に向けた職員のスキルアップを図っている。法人は、5部会(感染症・安全・防災・給食・研修)を設置し、定期的に各事業所管理者や部会委員の意見交換と情報共有を図っている。食事は、施設内厨房で管理栄養士による献立てを委託業者が調理しているが、毎月併設事業所と共に給食部会で検討して、利用者の好みや季節感を反映した食事を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの職員会議にて理念を基にした事業計画の骨子を作成し、理念の共有を図り、利用者サービスへの基礎としています。	2ユニット合同で月例職員会議を行い、情報共有を図っている。特に年度最初の職員会議では、法人理念に基づく「ル・ソレイユ函南」の事業計画を確認し、計画達成に向け取り組んでいる。定期的な法人グループの施設代表者会議(1回/月)の際も、理念を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍であり地域との交流は避けていますが、今後近隣の学校や地域住人との連携を図り交流につなげていきます。	コロナ禍により、地域との交流は難しい状況であるが、以前から交流がある地元農業高校や地域住民との交流、ボランティアの受け入れに向けて、コロナ禍後を見据えた関係の継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報誌を通じて認知症についての知識の発信を利用者家族や近隣地域の広報にて行っています。また、法人で認知症カフェを行っているがコロナ禍で見合わせています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防の観点から地域密着型サービスの三事業所をまとめて実施しています。頂いた意見は職員会議にて共有しサービス向上に取り組んでいます。	運営推進会議は、法人運営の地域密着型3事業所が合同で、2か月に1回書面にて開催している。開設間もない事業所のため、他事業所の運営状況等を参考にしながら、運営推進会議委員との意見交換・情報共有を図り、事業所運営に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	計画作成者(介護支援専門員)を中心に連携を図り、状況報告を踏まえた相談を実施しています。	運営推進会議の議事録は、町のHPに掲載され誰でも閲覧できる仕組みであり、運営の可視化が図られている。管理者は、法人統括責任者やケアマネジャーと共に常に連絡を心掛け、行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について宣言しています。また職員会議の内部研修において身体拘束についての勉強会を実施し廃止を実践しています。	指針・マニュアルを整備し、「身体拘束適正化委員会」を3か月に1回実施して、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。職員研修は、職員会議の際に勉強会を実施し、身体拘束に関わる情報を職員間で共有している。	

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても職員会議において勉強会を実施し発生防止の実践をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については職員会議で勉強会を実施していますが職員への浸透率が低いため定期的な勉強会を実施します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書、個人情報使用の同意書、写真掲載の同意書、その他同意書を読み上げて説明し署名捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望は契約時や面会時に伺いサービス計画に反映しています。但し、アンケートの実施は今回が初めてであり今後年度ごとに実施して行きます。	家族の意見や要望を収集するため、法人内他事業所と同様に「家族アンケート」を実施した。管理者と職員は、収集した意見や要望を基に改善点を共有しながら、事業所運営に繋げている。コロナ禍により面会を制限しているが、こまめな電話連絡を心掛け、ZOOMを活用した面会を通知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年度、4月と10月の2回、職員と管理者の個別面談を実施し意見を伺う環境を整えています。また、日頃の稼働の中でも職員の提案を受け止め利用者対応や備品等の導入をしています。	管理者と統括責任者は、職員の「業務目標シート」を基に、年2回個人面談を実施している。職員自身の目標達成の評価や意見・提案を聴き、職員のスキルアップに繋げると共に、改善案や提案は職員会議で意見交換を図る仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに事業計画に沿った職員個々が個人目標を設定し目標達成に向けて取り組んでいます。上期下期で達成状況の面談を管理者より統括に報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議にて内部研修を実施しています。外部研修についてはリモートにて研修を受けています。職員のキャリアに合わせた研修への参加を実施しています。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所として実施しているネットワークはありませんが、町や包括支援センターが主催する連携会議等に参加し意見交換を実施しています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャー等より生活の背景や困りごと、意向などを伺い職員間の情報共有を図り、安心して生活していただけるよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の意向を伺い、意向に沿えるように努めています。また入居後も生活状況をお伝えし信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至るまでの状況をご家族やケアマネジャーより伺い、必要とされているサービスを整理し、ご本とご家族が安心していただけるサービス提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前に共有した情報を基に生活背景と日頃の関りやコミュニケーションから関係を深め、ご本人の意向を受け止めながら生活環境を整えています。また職員間で情報を共有し対応の標準化に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではありますが、体調のすぐれない利用者への面会のご家族の意向に沿い実施しています。利用者ご家族のご希望に可能な限り応えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の行きつけの理容室や安心できる主治医への定期受診等、継続をお手伝いしています。 また、食事と別に食べたいものを地域のスーパーに買い物に行っています。	感染防止対策を徹底しながら、近くの商店への買い物や通院など、以前からの暮らしぶりを継続できるよう支援している。以前の有料老人ホームから入居した利用者も多く、利用者同士が馴染みの関係であり、近隣社会資源の活用や、SNSや携帯電話での家族との連絡など、関係継続に取り組んでいる。	

静岡県(グループホームル・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	活動を通じて職員が間に入り利用者間の関 係づくりに努めています。特に新規の利用 者については配慮しています。また、ユニッ トを越えての活動を取り入れ交流を深めて います。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点で当事業所より自宅や他事業所に 行かれた方はいらっしゃいません。今後、取 り組んでいきたいと思ひます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日頃の関わりの中から利用者の声に耳を傾 け、意向を把握するように努めています。可 能な限りその声に応えられるように努めてい ます。その情報を職員間で共有し均一な サービス提供に努めています。	管理者は入居時に「入居情報シート」を作成 し、利用者・家族の意見や要望を整理して、 介護計画作成に反映すると共に、職員と情 報共有している。日々の様子や変化は業務 日誌や申し送りノートに記載し、利用者の思 いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所に至るまでの生活の背景やサービスの 利用状況を計画作成者が把握しアセスメン トに落とし込み、職員間で情報共有してい ます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者個々の心身の状況や能力に応じて 関わっています。また、日々の様子に合わ せ本人の意向を尊重し無理のない生活をし ていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人、ご家族、医療、看護、介護の情報を計 画作成者が把握しサービス計画書に反映し ています。その方の今に沿った計画作成に 努めています。	カンファレンス会議は、2ユニット合同で月例 職員会議の際に実施している。ケアマネ ジャーと計画作成担当者は、職員が記録す る「CARE PLAN Daily Check」の情報を基 に、居室担当職員を中心に、職員との意見 交換を図っている。利用者・家族の意向を確 認のうえモニタリングを行い、介護計画作成 に繋げている。	カンファレンス会議では、日々支援に 当たる職員により活発な意見交換がで ることが重要です。カンファレンス対 象者の居室担当職員が、事前に長期・ 短期目標を記載した「カンファレンス シート」を記入し、これを基に意見交換 するなど、実効ある仕組み作りの検討 を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、利用者個々に記録をしていますが、 生活状況の見える記録にもっと近づけるよ うに努めていきます。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な身体状況の変化に対応できるように、エアマットや車椅子、ベッドサイドテーブル等を準備しています。利用者、ご家族の安心につながっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向に沿って買い物や銀行への同行、美容室、理容室への同行等、近隣の地域の資源を活用し社会的交流の場への参加をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ユニット毎に月2回の往診があり利用者、ご家族の安心につながっています。また、24時間体制で往診の対応があるため、急な体調不良にも対応しています。	協力医による月2回の往診、歯科医師の週1回訪問と事業所職員である看護師が週3回訪問し、介護職員と連携をとりながら、利用者の健康を管理している。緊急時は、医師・看護師ともに24時間対応ができる体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ですが看護師を配置しています。介護職員より看護師に利用者の状況を伝えることで医的な判断ができ、利用者、ご家族の安心安全につながっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	基本的に入院することなく往診医が居室にて医療行為を行って下さいます。但し、入院が必要な場合には往診医より他病院へ連絡し手配して下さい。入退院時には計画作成者、管理者で病院と連携を図り家族報告を含め対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の判断により、ご本人、ご家族と話をしています。医師、計画作成者、看護師、管理者が同席し意向を確認しながら選択肢を提案しています	入居時に、「重度化指針」と「マニュアル」を示して利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合には、再度家族の意向を確認し、医師と連携の上、家族の意向に沿って対応している。看取りに関する職員研修は、急変時の対応を含め、月例職員会議にて定期的に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しています。往診医の指示に従い状況により救急要請します。迷うときには管理者に連絡し指示を仰ぐ体制にしています。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回総合防災訓練を実施しています。建物の構造に合わせ消防署と連携し、避難誘導についての協定をしています。また、水害時には近隣地域の消防団に協力していただきました。	災害対策訓練は年2回テーマを決めて実施し、実施後の問題や反省点を整理し、次回の訓練に繋げている。近隣住民との協力関係を築いている。災害備蓄品は法人本部が備蓄管理し、食料は委託業者が管理しているため、備蓄品台帳が整備されていない。	災害対策は緊急を要するものであることから、事業所毎に管理していることが望ましく、備蓄内容がわかる台帳の整備と共に、職員が夜間でも対応できる保管場所の周知等の取り組みに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共感する心・姿勢を常に持ち、利用者の声に耳を傾け日々信頼関係の構築に努めています。また、プライバシーに配慮したケアの実践に取り組んでいます。	個人情報保護について、入居時に利用者・家族に説明し、写真掲載等の同意を得ている。課題が散見された場合は、管理者・主任が都度注意すると共に、年度初めの月例職員会議では、確認と情報の共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中からその思いを受け止め、サービスに反映しています。急な希望にもタイムリーに対応できるように職員間で連携を図り対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	経営理念にもある利用者第一主義に基づき利用者の意向に沿った対応に努めています。生活の場であることを理解し、利用者の意向を一番に考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	シャンプーやトリートメントを個人購入ですが好みの物を使っています。衣類についても希望に応じて近隣の店舗に買い物に行きます。お化粧品もご本人のペースでされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託業者が調理を担当しています。テーブルを拭いたり洗い物は一部の利用者ですが一緒に行って下さることもあります。また、季節のイベントにちなんだ特別食も提供しています。	事業所施設内の厨房で給食委託業者が調理し、季節食やイベント食の提供も行っている。給食部会を設置し、月1回、法人内他事業所と共に委託業者と意見交換を行い、献立作りに利用者の好みや希望を反映させている。利用者の能力に合わせて、食事の準備や片付けを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の管理栄養士によりカロリー計算がされています。食事形態も利用者の嚥下機能に合わせて調整できます。また、メニューについても利用者のご希望を伝え反映しています。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全利用者の口腔ケアを実施しています。また、毎週、近隣の歯科医院より先生と歯科衛生士が来所され専門的な口腔ケアや義歯の調整等をしていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄サイクルを把握しトイレ誘導をしています。立ち上がりの困難な方についても2人介助でトイレ介助をしています。夜間帯も声かけをしながらトイレ誘導を行い対応しています。	利用者の居室には、トイレ・洗面台の設備があり、利用者は昼夜とも自分の居室のトイレを利用している。「排泄チェックシート」を活用して早めのトイレ誘導を心掛け、安全に配慮しながら、トイレ利用と先回りケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の処方により緩下剤を服用されている方はいらっしゃいます。毎日機能訓練体操や廊下や平行棒などで歩行訓練を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は身体機能に合わせて普通浴とリフト浴にて入浴して頂いています。基本的には曜日や時間は固定ですが受診や外出に合わせて柔軟に対応しています。冬には柚子湯で入浴して頂いています。	週2回午前の入浴支援を基本としているが、利用者の希望や体調・気分に合わせて柔軟に対応している。機械浴の設備を活用して、利用者の身体機能に合わせた、安全な入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後には休息の時間を設けています。日中身体を動かすことで夜間の安眠につながっています。夜も特に消灯時間は決めていません。23時頃までテレビを観る方やフロアで談話される方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更がある場合には申し送りノートに記載し、情報を共有しています。体調に変化があれば看護師や主任、管理者に報告するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	俳句やパソコンでの年賀状など取り組まれる方もいます。食事以外に食べたい食品も購入し召し上がられています。食後に湯飲みのコップを洗って下さる方やテーブルを拭いたりゴミ袋を作って下さる方もいます。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍になる前は面会に合わせてご家族と外出され買い物や食事をされていました。日用品の買い物についてはご希望に合わせて適時対応しています。	コロナ禍の折、遠方への外出が難しい状況ではあるが、外気浴をかねて玄関先のプランターの花の水やりや事業所周辺の散歩など、利用者個々に合わせて工夫した外出支援を心掛けている。平常時は、家族との買い物や食事を楽しむ機会を大切に対応していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理されている方や、経理にてお預かりしている方もいます。ご希望時には職員と一緒に出かけ買い物に行き支払いをすることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方はご家族と自由に電話されています。その他の方はご希望に合わせて対応しています。家族のご希望にも対応しオンラインの実施もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室担当が利用者と一緒に居室内はその方の使いやすいように整えています。共有スペースは季節感ある飾り付けを利用者と一緒に作成しています。マッサージチェアなどもご希望者には使用していただけます。	感染防止対策に注意を払い、こまめな換気と共用部分の消毒に努めている。マッサージチェアの設置や廊下のスロープを利用した運動など、広いスペースを活かした空間作りを工夫している。利用者による作品を季節毎に飾り、和やかな雰囲気作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアにソファがあり、気の合う方同士でお話をされています。食事の時は席が決まっていますがその他の時間は好きに座っていただいています。独りになりたいときは居室に戻られることが多いです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には自宅にて使っていた家具など持ち込まれています。環境整備は居室担当がその方の生活がしやすいように一緒に行っています。また入居後も自宅に衣類を取りに行ったりしています。鏡台など持ち込まれている方もいます。	感染防止対策として、こまめな換気・消毒に注意を払っている。居室は広く、トイレ・洗面台・ミニキッチンが設置され、慣れ親しんだ家具を持ち込み、利用者好みの部屋作りを支援している。居室担当職員は家族の協力を得ながら、利用者と共に清掃や整理整頓をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各フロア共にバリアフリーになっています。リフト浴のところにスロープと階段がありますが訓練に活用しています。利用者によってはゴミ捨てを自分で行う方や洗濯物を出したりたたんだりしてくださる方もいらっしゃいます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290300058		
法人名	株式会社 ソレイユ		
事業所名	グループホーム ル・ソレイユ函南		
所在地	静岡県田方郡函南町間宮760-1		
自己評価作成日	令和4年2月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2290300058-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の声に耳を傾け、その思いを受け止め、可能な限り利用者の声に応えるよう努めています。共に笑い、共に悩み、正面から向き合い、利用者の笑顔に繋がる関りを職員1人ひとりが取り組むことに力を入れています。そのため、利用者個々の把握ができるように利用者1人に担当職員を1人配置し、出勤時に合わせ利用者個々の生活環境の整備を一緒に行ったり、コミュニケーションの中で困りごとはないかなど信頼関係の構築に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの職員会議にて理念を基にした事業計画の骨子を作成し、理念の共有を図り、利用者サービスへの基礎としています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍であり地域との交流は避けていますが、今後近隣の学校や地域住人との連携を図り交流につなげていきます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報誌を通じて認知症についての知識の発信を利用者家族や近隣地域の広報にて行っています。また、法人で認知症カフェを行っているがコロナ禍で見合わせています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防の観点から地域密着型サービスの三事業所をまとめて実施しています。頂いた意見は職員会議にて共有しサービス向上に取り組んでいます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	計画作成者(介護支援専門員)を中心に連携を図り、状況報告を踏まえた相談を実施しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について宣言しています。また職員会議の内部研修において身体拘束についての勉強会を実施し廃止を実践しています。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても職員会議において勉強会を実施し発生防止の実践をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については職員会議で勉強会を実施していますが職員への浸透率が低いため定期的な勉強会を実施します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書、個人情報使用の同意書、写真掲載の同意書、その他同意書を読み上げて説明し署名捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望は契約時や面会時に伺いサービス計画に反映しています。但し、アンケートの実施は今回が初めてであり今後年度ごとに実施して行きます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年度、4月と10月の2回、職員と管理者の個別面談を実施し意見を伺う環境を整えています。また、日頃の稼働の中でも職員の提案を受け止め利用者対応や備品等の導入をしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに事業計画に沿った職員個々が個人目標を設定し目標達成に向けて取り組んでいます。上期下期で達成状況の面談を管理者より統括に報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議にて内部研修を実施しています。外部研修についてはリモートにて研修を受けています。職員のキャリアに合わせた研修への参加を実施しています。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所として実施しているネットワークはありませんが、町や包括支援センターが主催する連携会議等に参加し意見交換を実施しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、ケアマネージャー等より生活の背景や困りごと、意向などを伺い職員間の情報共有を図り、安心して生活していただけるように取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の意向を伺い、意向に沿えるように努めています。また入居後も生活状況をお伝えし信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至るまでの状況をご家族やケアマネージャーより伺い、必要とされているサービスを整理し、ご本にとご家族が安心していただけるサービス提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前に共有した情報を基に生活背景と日頃の関りやコミュニケーションから関係を深め、ご本人の意向を受け止めながら生活環境を整えています。また職員間で情報を共有し対応の標準化に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではありますが、体調のすぐれない利用者への面会にご家族の意向に沿い実施しています。利用者ご家族のご希望に可能な限り応えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本にの行きつけの理容室や安心できる主治医への定期受診等、継続をお手伝いしています。 また、食事と別に食べたいものを地域のスーパーに買い物に行っています。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動を通じて職員が間に入り利用者間の関係づくりに努めています。特に新規の利用者については配慮しています。また、ユニットを越えての活動を取り入れ交流を深めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点で当事業所より自宅や他事業所に行かれた方はいらっしゃいません。今後、取り組んでいきたいと思えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関りの中から利用者の声に耳を傾け、意向を把握するように努めています。可能な限りその声に応えられるように努めています。その情報を職員間で共有し均一なサービス提供に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に至るまでの生活の背景やサービスの利用状況を計画作成者が把握しアセスメントに落とし込み、職員間で情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の心身の状況や能力に応じて関わっています。また、日々の様子に合わせて本人の意向を尊重し無理のない生活をしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、医療、看護、介護の情報を計画作成者が把握しサービス計画書に反映しています。その方の今に沿った計画作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、利用者個々に記録をしていますが、生活状況の見える記録にもっと近づけるように努めていきます。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な身体状況の変化に対応できるように、エアマットや車椅子、ベッドサイドテーブル等を準備しています。利用者、ご家族の安心につながっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向に沿って買い物や銀行への同行、美容室、理容室への同行等、近隣の地域の資源を活用し社会的交流の場への参加をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ユニット毎に月2回の往診があり利用者、ご家族の安心につながっています。また、24時間体制で往診の対応があるため、急な体調不良にも対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ですが看護師を配置しています。介護職員より看護師に利用者の状況を伝えることで医的な判断ができ、利用者、ご家族の安心安全につながっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	基本的に入院することなく往診医が居室にて医療行為を行って下さいます。但し、入院が必要な場合には往診医より他病院へ連絡し手配して下さい。入退院時には計画作成者、管理者で病院と連携を図り家族報告を含め対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の判断により、ご本人、ご家族と話をしています。医師、計画作成者、看護師、管理者が同席し意向を確認しながら選択肢を提案しています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しています。往診医の指示に従い状況により救急要請します。迷うときには管理者に連絡し指示を仰ぐ体制にしています。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回総合防災訓練を実施しています。建物の構造に合わせ消防署と連携し、避難誘導についての協定をしています。また、水害時には近隣地域の消防団に協力していただきました。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共感する心・姿勢を常に持ち、利用者の声に耳を傾け日々信頼関係の構築に努めています。また、プライバシーに配慮したケアの実践に取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中からその思いを受け止め、サービスに反映しています。急な希望にもタイムリーに対応できるように職員間で連携を図り対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	経営理念にもある利用者第一主義に基づき利用者の意向に沿った対応に努めています。生活の場であることを理解し、利用者の意向を一番に考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	シャンプーやトリートメントを個人購入ですが好みの物を使っています。衣類についても希望に応じて近隣の店舗に買い物に行きます。お化粧品もご本人のペースでされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託業者が調理を担当しています。テーブルを拭いたり洗い物は一部の利用者ですが一緒に行って下さることもあります。また、季節のイベントにちなんだ特別食も提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の管理栄養士によりカロリー計算がされています。食事形態も利用者の嚥下機能に合わせ調整できます。また、メニューについても利用者のご希望を伝え反映しています。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全利用者の口腔ケアを実施しています。また、毎週、近隣の歯科医院より先生と歯科衛生士が来所され専門的な口腔ケアや義歯の調整等をしていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄サイクルを把握しトイレ誘導をしています。立ち上がりの困難な方についても2人介助でトイレ介助をしています。夜間帯も声かけをしながらトイレ誘導を行い対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の処方により緩下剤を服用されている方はいらっしゃいます。毎日機能訓練体操や廊下や平行棒などで歩行訓練を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は身体機能に合わせて普通浴とリフト浴にて入浴して頂いています。基本的には曜日や時間は固定ですが受診や外出に合わせて柔軟に対応しています。冬には柚子湯で入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後には休息の時間を設けています。日中身体を動かすことで夜間の安眠につながっています。夜も特に消灯時間は決めていません。23時頃までテレビを観る方やフロアで談話される方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更がある場合には申し送りノートに記載し、情報を共有しています。体調に変化があれば看護師や主任、管理者に報告するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	俳句やパソコンでの年賀状など取り組まれる方もいます。食事以外に食べたい食品も購入し召し上がられています。食後に湯飲みのコップを洗って下さる方やテーブルを拭いたりゴミ袋を作って下さる方もいます。		

静岡県(グループホーム・ソレイユ函南)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍になる前は面会に合わせてご家族と外出され買い物や食事をされていました。日用品の買い物についてはご希望に合わせて適時対応しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理されている方や、経理にてお預かりしている方もいます。ご希望時には職員と一緒に出かけ買い物に行き支払いをすることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方はご家族と自由に電話されています。その他の方はご希望に合わせて対応しています。家族のご希望にも対応しオンラインの実施もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室担当が利用者と一緒に居室内はその方の使いやすいように整えています。共有スペースは季節感ある飾り付けを利用者と一緒に作成しています。マッサージチェアなどもありご希望者には使用していただけます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアにソファがあり、気の合う方同士でお話をされています。食事の時は席が決まっていますがその他の時間は好きに座っていただいています。独りになりたいときは居室に戻られることが多いです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には自宅にて使っていた家具など持ち込まれています。環境整備は居室担当がその方の生活がしやすいように一緒に行っています。また入居後も自宅に衣類を取りに行ったりしています。鏡台など持ち込まれている方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各フロア共にバリアフリーになっています。リフト浴のところにスロープと階段がありますが訓練に活用しています。利用者によってはゴミ捨てを自分で行う方や洗濯物を出したりたたんだりしてくださる方もいらっしゃいます。		